

「ながさきポルトガル」知る知る塾





塾長 山口 克己

■ 塾長コメント ■

「南蛮」を漢字通りに読むと、南の蛮族みたいな感じに受け取られる方も少なくないかもしれません。でもとりわけ九州、長崎においてはそんなことはなく、「南蛮文化」や「南蛮渡来」といったように、ごく当たり前を受け止めていることでしょう。

その長崎の街は国際観光都市と位置づけられ、中国文化、オランダ文化(西洋文化)の入り交じった街で、よく「和華蘭：わからん」文化ともいわれたりします。しかし、1571年長崎の港が開かれたのと時を同じくして、長崎に足を踏み入れたのは「ポルトガル船」だったのです。南蛮屏風の中にみられるあの独特のいでたちの「南蛮人」が、長崎の街を闊歩していたのです。440年前は、きっと。

それから70年あまりの間、ポルトガルとの交流は続き、さまざまな習慣や文化を長崎の街にもたらしたのです。そう、それは「長崎人」の中に静かに深くしみこんでいったのではないのでしょうか？

そんなポルトガルとの交流も、禁教令という施策の中で追放される悲しい出来事を迎えてしまいます。「南蛮人」と「長崎人」の間で生まれた「長崎南蛮人」たちも、結局はこの長崎の街を追放されてしまうのです。再び、ポルトガルと長崎が出会い結びつく1860年

までの長い沈黙の年月が約300年弱。あまりにも長い空白の時間は、長崎の街に残っていた形あるポルトガルの軌跡をも消滅させてしまいました。しかし、形のない習慣や言葉、料理や菓子は、生活の中に存在し続けることで今日の長崎の街、いや日本の中に残っているのです。ポルトガルは、形として見えていないだけで、私たちのすぐそばにたくさんあふれているのです。

1860年の日葡修好通商条約から150周年を迎えた年に、長崎の街に埋もれていたポルトガルをあらためて再発見しようと、この「ながさきポルトガル知る知る塾」を立ち上げたのでした。ベタなネーミングで変なんですけどね。(笑)

※「南蛮」というと、広い意味ではポルトガルだけではなくイスパニアやイタリアも含んだりすることもあります。塾では「ポルトガル」という意味で使っています。

■ 塾の目的 ■

ずばり！塾のコンセプトは、「長崎のポルトガルを掘りおこせ！」なのです。中華街イコール「中国」や、出島和蘭商館イコール「オランダ」は、もちろんメジャーなのですが「ポルトガル」も忘れてはなりません。歴史の中に、長崎の街の中に埋もれてしまっている「ポルトガル」を再発見して、みんなに広く知ってもらえる活動をやっていくのです。

中には、「そんな事は言われなくても知ってるよ！ポルトガルでしょ？」という人々も多くいることでしょう。しかし、あらためて長崎の街を見まわしてみると「はて？」と感じる事も少なくないはず。 「出島」は元々長崎の市中に点在していたポルトガル人を1カ所に集めるために造られた「築島」だった事は、みなさんも知っている通りです。

でも、「出島和蘭商館」なのです。

そんな歴史の中に埋もれている「ポルトガル」を、学び知ることによって長崎のまちをもっと好きになるために、そして多くの人に長崎のまちを、ポルトガルをもっともっと好きになってもらうために、活動していきたいと思います。

■ 塾の研究・活動内容 ■

目的はハッキリしながらも、具体的に何をやっていけばいいのか？漠然とした中にも、活動グループを大きく3つに分けて班編制を行うところからスタートしました。

まず、「ポルトガルを探す」チーム探。「ポルトガルを遊ぶ」チーム遊。「ポルトガルを感じる」チーム感。の3つのグループです。塾生をそれぞれの班に分かれてもらい、グループ内での協力を行いながらとりあげたテーマの研究やイベントの進行を進めていきました。「探」では、銅座町南蛮船の事や、長崎のまちにあるポルトガルポイントを探して回ったり、「遊」では、うんすんかるたの大会参加や、普及活動推進など。「感」では、ポルトガルの人たちとの交流を経験しながら、簡単なポルトガル語の学習や音楽体験(ポルトガルギターやファド)を進めていきました。

■ 塾活動の成果 ■

日本ポルトガル修好通商条約 150 周年に当たった 2010 年は、「ポルトガルを知る知る」テーマを中心に活動しました。記念の年にあたったということで、特別な行事が重なり多忙な「体験塾」活動となってしまいました。例年では起こりえないことにあふれた一年であり、塾生の「ポルトガル体感度」は 120%だったと思います。今まで気づけなかった「ポルトガル」を肌で感じることができ、長崎とポルトガルの深

い結びつきを実感することができました。

長崎のポルトガルを掘りおこす活動は、まだ始まったばかりです。調査をしていく中で、いかに長崎のまちに「ポルトガル」が残っていない事に驚くばかりでした。しかし新たな視点で「ながさき」のまちを見てもみると、隠れたポルトガルが見えてくるのです。塾活動において出会ったたくさんのポルトガルを愛する人たちに会えたことは、これからの活動にむけて素晴らしい成果とも言えます。そのきっかけとして「ポルトガルミニさるく MAP」の制作までを形として残すことが出来ました。これらを活用しながら、またさらに編纂を重ねながら「ながさきとポルトガル」を広く知ってもらえるように活動を続けていきたいと考えています。

■ SPECIAL THANKS ■

- ・ 高田節雄さん(銅座町自治会長:特別講師)
「銅座町南蛮船について」の講演
- ・ 脇山壽子さん(料理研究家:特別講師)
「長崎南蛮料理について」の講演
- ・ 白須純さん(作家:ワークショップ講師)
「アズレージョタイル絵付け体験」の指導
- ・ 湯浅隆さん、吉田剛士さん(マリオネット)
(ポルトガルギターと音楽:特別講師)
「ポルトガルギター演奏会と塾生レクチャー」
- ・ 高柳卓也さん(ファディスタ:特別講師)
「ファドミニライブ&ポルトガル体験談講師」
- ・ 井上周子さん(リュート奏者:ライブ協力)
(ファドミニライブ協力)
- ・ 小林若菜さん(元ポルトガル在住)
(ファドミニライブ協力)
- ・ 松翁軒さん(ファドミニライブ会場協力)
(ファドミニライブ・伝習所成果報告会協力)

※この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

ながさきポルトガル知る知る塾 活動記録

| 日 時 | 場 所 | 内 容 | 参加人数 |
|----------------|-------------|---|------|
| 平成 22 年 | | | |
| 5 月 14 日 (金) | 長崎県勤労福祉会館 | 長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議 | 20 名 |
| 5 月 22 日 (土) | アマランス第一会議室 | 第 2 回 塾会議(ファーストディスカッション) | 18 名 |
| 6 月 4 日 (金) | アマランス第一会議室 | 第 3 回 塾会議(班編制会議) | 17 名 |
| 6 月 15 日 (火) | アマランス第一会議室 | 第 4 回 塾会議(各班の目標設定) | 16 名 |
| 7 月 6 日 (火) | アマランス第一会議室 | 第 5 回 塾会議(サグレス号来航事前勉強会) | 14 名 |
| 7 月 22 日 (木) | アマランス第一会議室 | 第 6 回 塾会議(銅座町南蛮船について) 特別講演：高田節雄自治会長 ゲスト：高柳卓也氏(ファディスタ) | 18 名 |
| 8 月 3 日 (火) | 全日空グラバーヒル | 特別行事：サグレス号歓迎レセプション参加 | 7 名 |
| 8 月 4 日 (水) | 常盤町岸壁～出島 | 特別行事：出島 de 船長(ミステリーツアー協力) | 16 名 |
| 8 月 5 日 (木) | アマランス第一会議室 | 第 7 回 塾会議(サグレス交流報告会) | 18 名 |
| 8 月 6 日 (金) | 出島ワーフ岸壁 | 特別行事： サグレス号歓迎・南蛮船お披露目会 | 8 名 |
| 8 月 8 日 (日) | 常盤町岸壁 | 特別行事：サグレス号出港記念イベント | *** |
| 8 月 25 日 (水) | アマランス第一会議室 | 第 8 回 塾会議(南蛮料理研究報告会) | 14 名 |
| 9 月 4 日 (土) | 出島：旧長崎内外クラブ | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 9 月 8 日 (水) | アマランス第一会議室 | 第 9 回 塾会議(南蛮料理について) 特別講演：脇山壽子氏を迎えて | 16 名 |
| 9 月 11 日 (土) | 出島：旧長崎内外クラブ | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 9 月 18 日 (土) | 出島：旧長崎内外クラブ | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 9 月 25 日 (土) | 出島：旧長崎内外クラブ | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 9 月 29 日 (水) | アマランス第一会議室 | 第 10 回 塾会議(マリオネット PV 鑑賞会) | 14 名 |
| 10 月 1 日 (金) | ランタナ会議室 | 特別行事：アズレージョ絵付体験教室 特別ワークショップ 特別講師：白須純氏 | 6 名 |
| 10 月 2 日 (土) | 出島：旧長崎内外クラブ | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 10 月 5 日 (火) | アマランス第一会議室 | 第 11 回 塾会議(研修旅行準備会) | 15 名 |
| 10 月 6 日 (水) | 水辺の公園レストラン | 特別行事：ザナッティ駐日葡大使夫妻懇親会 | 13 名 |
| 10 月 7 日 (木) | 市内各所 | 長崎くんち 銅座町『南蛮船』(~10月9日) | *** |

| 日 時 | 場 所 | 内 容 | 参加人数 |
|--------------|---------------|---|------|
| 10月10日(日) | 人吉市鍛冶屋町 | 研修旅行「人吉うんすんかるた大会と葡交流会」：古楽器リユート奏者 井上周子氏 | 22名 |
| 10月12日(火) | NBC ビデオホール | 協カイベント:「マリオネットコンサート」&特別講演 ポルトガル音楽とポルトガルギターについて 特別講師:湯浅隆氏、吉田剛士氏を迎えて | 20名 |
| 10月22日(金) | アマランス第一会議室 | 第12回 塾会議(リスボンナイトについて) | 12名 |
| 11月5日(金) | 松翁軒 2F セヴィーリア | 特別行事:リスボンナイト IN 長崎(ファドコンサート) 特別講師:高柳卓也氏(ファド&ギター) 井上周子氏(リユート奏者) | 21名 |
| 11月6日(土) | 出島:出島神学校 | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 11月18日(木) | アマランス第一会議室 | 第12回 塾会議(今後の塾活動について) | 15名 |
| 12月4日(土) | 出島:出島神学校 | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 12月9日(木) | アマランス第一会議室 | 第13回 塾会議(長崎のポルトガル調査) | 12名 |
| 12月21日(火) | アマランス第一会議室 | 第14回 塾会議(懇親会) | 14名 |
| 平成23年 | | | |
| 1月8日(土) | 出島:出島神学校 | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 1月11日(火) | アマランス第一会議室 | 第15回 塾会議(伝習所まつりについて) | 11名 |
| 1月27日(木) | アマランス第一会議室 | 第16回 塾会議(伝習所まつりその2) | 14名 |
| 2月5日(土) | 出島:出島神学校 | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | *** |
| 2月9日(水) | アマランス第一会議室 | 第17回 塾会議(長崎のポルトガル調査その2) | 13名 |
| 2月22日(火) | アマランス第一会議室 | 第18回 塾会議(伝習所まつりその3) | 14名 |
| 3月5日(土) | 出島:出島神学校 | ウンスンカルタお稽古会(一般体験交流) | |
| 3月8日(火) | アマランス第一会議室 | 第19回 塾会議(長崎のポルトガル調査) | |
| 3月11日(金) | 北九州・佐賀(小城) | 研修旅行「ポルトガル伝来のお菓子を訪ねて」 (金平糖:入江製菓&マルボーロ:村岡総本舗) | |
| 3月15日(火) | アマランス第一会議室 | 第20回 塾会議(伝習所まつり最終準備) | |
| 3月21日(月) | ベルナード観光通り | 長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、イベントクイズなどを実施 ① ポルトガルミニさるく実施 ② クイズでカステーラ!実施 ③ うんすんかるた体験会実施 | |

**7月22日・特別講演：
くunch銅座町（南蛮船）について**

7月22日（木）：アマランス会議室にて

今年の長崎くunch踊り町である「銅座町」の自治会長高田さんをお迎えして、演し物である南蛮船のお話しをお聞きしました。

銅座町の南蛮船は、初演が平成元年とまだ新しい演し物だったということや、製作までの苦労話、昭和63年のくunch本番を前に突然の中止(天皇陛下のご病気)で一年延期になったことなどを知り、そのために奇遇にも21年後の2010年、日葡修好150周年の年に銅座町が踊り町として巡ってきたのです。



《講演風景：中央手前が高田自治会長》

この日は、ゲストにファディスタの高柳卓也さんも長崎を訪れており、塾の集まりにゲスト参加されました。



《塾会風景：右から3番目が高柳卓也さん》

翌月の8月6日、その銅座町「南蛮船」とサグレス号の交流が行われました。この日はまたまた奇遇にもメンデス艦長の誕生日で、思いがけないお祝いとなりました。実はサグレス号が長崎に寄港した8月3日は歓迎レセプションが行われましたが、この日は150年前の修好通称条約が結ばれた日だったので



《お披露目する銅座町の南蛮船》



《銅座町の子供たちにお祝いされる艦長》



《艦長招待による夜のサグレス号公開》

サグレス号交流イベント

出島ミステリーツアー：サポーター参加

8月4日：水辺の森公園岸壁～出島

この日は毎年行われている出島の子どもイベント「出島ミステリーツアー」のサポーター参加を行いました。日葡 150 周年の記念イベントとして夏休みに来港しているサグレス号と子どもたちとの交流イベントです。出島といえばオランダというイメージですが、ポルトガルとも関係深い場所です。



《子どもたちの引率役として塾生が協力》

この交流イベントも、子どもたちにサグレス号の船員さんたちとふれあってもらおうと出島復元整備室へ提案し、長崎入港の決定より前から長崎の日本ポルトガル協会の安田事務局長を通じてご協力をいただき実現したものです。一般公開を前に子どもたちが一番最初のゲストとなりました。



《楽しそうに船上に集合する子どもたち》



《船員に説明をうけるツアーの子どもたち》



《出島で、船や交易について学ぶ子どもたち》

サグレス号のクルーの皆さんは、忙しいスケジュールの合間に見学の時間を作っていただき、子どもたちも充実した体験を出来たことと実感しています。将来へ向けて、よりよい友好関係の芽が育つことでしょう。ご尽力いただきました関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



《印象に残ったもの・・・ワイン樽・・・》

サグレス号出航イベント

～また会う日まで～

8月8日 水辺の森公園岸壁

横浜、種子島に続き寄港した長崎での行事を終えてサグレス号は次の寄港地である韓国に向けて長崎を離れてゆきました。メンデス艦長の言葉にも長崎にたいする感謝の意が込められていました。横浜よりも一日多く寄港した長崎の港は、ポルトガル・リスボンの港によく似ていると言われます。七つの丘にかこまれたリスボンの港が、長崎の港風景と重なって見えるのかもしれませんが。世界一美しい帆船と呼ばれるサグレス号は、快晴の夏空の中美しい船体を離岸させました。メンデス艦長の粋な計らいで、離岸後すぐに白い帆をはり、その美しい姿を長崎の人々に見せてくれました。ナイスガイなメンデス艦長でした。またいつか長崎で！



《メンデス艦長》



《メンデス艦長と伝習所総長(田上市長)》



《白い制服が凛々しいサグレス号クルー》



《龍踊りもお見送り、ポルトガル国旗とマッチ!》



サグレス号は、世界でもっとも美しい大型帆船のひとつとされています。1961年に就役したポルトガル海軍の大型練習帆船です。総トン数は1,940トン、全長約90.8メートル、全幅12.02メートル。乗組員数は218人(訓練生含む)。計23枚(総面積1,979平方メートル)の白い帆をもち、そのうち10枚には大航海時代の伝統を受け継いだポルトガル王国アヴィス王朝の創始者であるジョアン1世の第3子、ヘンリー航海王子ゆかりのキリスト騎士団の赤い「十字紋章」がついています。

特別講演：

長崎南蛮料理について

9月8日：アマランス会議室

料理研究家の脇山壽子さんを講師にお迎えした勉強会を開催しました。脇山さんは長崎で265年続く老舗の砂糖および食料品全般の卸問屋・入来屋の代表取締役社長を務める傍ら、脇山料理教室主宰としても活躍されています。「NAGASAKI 伝来伝承郷土料理」というテーマで講師をしていただきました。

「テンプラ」がポルトガル語であることはみなさんご存知でしょうが、そのほかにもたくさんポルトガル伝来の料理が長崎の郷土料理として定着しています。テンプラは「長崎天ぷら」として有名です。ころもに味をつけて、よく練り混ぜてから揚げるもので、ポルトガルから伝わったものだそうです。



《冷めても美味しい：長崎天ぷら》

ヒカドもポルトガル語のピカードが語源で、「細かく刻む」という意味です。長崎の町で生活したポルトガル人伝来の物を、長崎風に工夫してアレンジしながら今に伝えられてきた長崎南蛮料理。奥が深い世界です。「南蛮」という言葉はある意味で「新しい」という語意を持っていたのではないのでしょうか。



《とろみをサツマイモでつけた：ヒカド》

脇山先生には資料も用意していただき、丁寧にお話をしていただき、ありがとうございました。料理のお話のほかにも、砂糖についていろいろなことを教えていただきました。砂糖と言えば「南蛮菓子」。カステラの原型と言われるパンデローやコンペイトウ、マルボーロに鶏卵素麺といったポルトガルから伝わったお菓子は今も日本で愛されています。



《コンペイトウ(金平糖)》

今後も機会を見つけて、料理やお菓子のルーツを探していこうと思います。

(3月 コンペイトウ製造の入江製菓さんへ工場見学に行く予定です。)

学ぶだけでなく、実際に作って食べてみることに組み込んでいきたいと思っています。

**特別講演：ワークショップ
アズレージョタイル絵付け体験**

10月1日：ランタナ会議室

10月1日には、長崎県美術館で開催されたポルトガルアート展「ポルトガルのこころ」のオープニングで長崎入りされた作家：白須純さんの指導でポルトガルタイル「アズレージョ」の絵付け体験を行いました。素焼きのアズレージョタイルはポルトガルから取り寄せた物で細かい感触がやはり日本で作ってもらうものとは違うそうです。美しい青色を表現するこのアズレージョタイルですが、絵付けをやってみるとこれがなかなか難しいのです。酸化コバルトで色つけをしていますが、絵付けの段階では薄い墨色なのです。焼成後にきれいな青色を出すのですが、色の濃さや表現は微妙な加減で変わってくるため簡単ではありませんでした。



《熱心に指導していただいた白須純先生》



《真剣なまなざしで指導を受ける塾生》

ポルトガルとの出会いは留学先の大学の恩師がポルトガル人で、その先生の誘いを受けポルトガル国内で作品制作を行ったのがきっかけだったそうです。人の出会いはまさに縁ですね。



《できあがった塾生作品》



《白須純先生と記念撮影》

貴重な体験をありがとうございました。

**懇親会：駐日ポルトガル大使
ザナッティご夫妻をお迎えして**

10月6日：水辺の公園レストラン

150周年の記念行事、そして銅座町南蛮船の観覧を目的にザナッティ大使ご夫妻がおくちの前日長崎入りされました。そのプライベートな時間をさいていただき、塾生との懇親会を行うことが出来ました。今回の任を終えると退官されるとの事で、2011年2月で故郷リスボンに帰るのだそうです。

世界各国を大使としてつとめてきたザナッティ大使は、日本への就任を聞いたときにとっても喜ばれたそうです。お話の端々にも親日ぶりが強く感じられ、和気あいあいの中で有意義な時間を過ごすことが出来ました。長崎のまちはリスボンに似ているとザナッティ大使も話されていました。(通訳の日置さん、いろいろとありがとうございました。)

そういえば前述の白須さんや、高柳さんも長崎の町中を一緒に移動している時に港の景色を見て同じように話されていました。そんなに似ているのか、これは一度ポルトガルに行くしかないですね。



《笑顔のザナッティ大使とマダレーナ夫人》

たくさんのポルトガルの話や、ポルトガルワインの飲み方も教えていただきました。



《カタコトの英語を交えながら国際交流》



《大使の話に聞き入る塾生》

この席で話を重ねていく中で強く感じたのは、日本人がポルトガルを思うよりも、ポルトガル人が日本を思っている気持ちの方が強いんじゃないか？という事です。16世紀に東の果てこの極東に位置する日本に渡ってくる熱意が今もポルトガルの人の中に深く存在しているのかもしれないと感じさせられました。貴重な時間を塾生のためにとっていただきありがとうございました。



《大使ご夫妻を囲んで恒例の記念撮影》

視察研修：

人吉ウンスンカルタ大会とポルトガル交流

10月10日：人吉市鍛冶屋町

ウンスンカルタといえばポルトガル。毎年秋に行われている人吉のウンスンカルタ大会に参加してきました。ベテラン&新鋭織り交ぜたわが塾生チームは4チーム参加し、結果は散々たる結果。上位進出はかないませんでした。

| チーム名：ながさき龍馬隊 | | | | |
|------------------|-------|--------|-------|-------|
| 勝敗 | 対戦相手 | 対戦相手名 | 対戦相手名 | 対戦相手名 |
| × | 28対44 | フェニックス | ジャパン | 5 |
| × | 35対37 | 人吉J.C | | 9 |
| × | 33対39 | 鹿児島県 | ロバット! | 1 |
| 成績：0勝3敗1分 合計 96個 | | | | |

| チーム名：ながさきお慶隊 | | | | |
|------------------|-------|-------|---------|-------|
| 勝敗 | 対戦相手 | 対戦相手名 | 対戦相手名 | 対戦相手名 |
| ○ | 41対31 | 上原田 | M.I.K.O | 3 |
| × | 33対39 | 松本野村 | 2010 | 17 |
| × | 24対48 | かて! | スレ! | 10 |
| 成績：1勝2敗1分 合計 98個 | | | | |

| チーム名：ながさき弥太郎隊 | | | | |
|------------------|-------|-------|-------|-------|
| 勝敗 | 対戦相手 | 対戦相手名 | 対戦相手名 | 対戦相手名 |
| × | 24対48 | チーム | MERi | 1 |
| × | 32対40 | 松舞 | | 5 |
| ○ | 37対35 | かじらぶ | | 8 |
| 成績：1勝2敗1分 合計 93個 | | | | |

| チーム名：ながさきカノリオ | | | | |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| 勝敗 | 対戦相手 | 対戦相手名 | 対戦相手名 | 対戦相手名 |
| × | 30対42 | 松本 | サライズ | 9 |
| ○ | 49対23 | ケン | マかせ! | 3 |
| × | 29対43 | はごろ | ソウ | 17 |
| 成績：1勝2敗1分 合計 108個 | | | | |

《対戦結果表・全チーム負け越しです》

九州各県、また東京からの参加もあり老若男女入り交じり 30 チーム弱が熱戦を繰り広げ、楽しい時間を過ごしました。



《記念撮影・来年こそはと誓う?》



《ポルトガル国旗の前で記念撮影、対戦前》

優勝は、初参加の国際チーム。唯一参加のポルトガル人大学生がいるチームが接戦の末に逆転優勝でした。150周年はドラマの連続ですね。すじがきのあるドラマみたいな…。次回はリベンジできるようにお稽古会にも励みましょう。



《対戦中。う・うんとともすんとも・・・》



《最後に塾長の万歳三唱で・・・なんですが》

寂しい結果に、申し訳ありません。陳謝。

特別講演：

ポルトガルギターと音楽（音楽体験）

10月12日：NBC ビデオホール

独特の音色を響かせる魅惑のポルトガルギター。かねてから長崎と縁があったポルトガルギターデュオ「マリオネット」の音楽に触れる機会を得ることが出来ました。かねてからマリオネットとお付き合いのあった知人の宮本圭子さんにご尽力いただき実現したコンサートです。



《ステージリハ中のマリオネットのふたり》

左が湯浅隆さん、右が吉田剛士さん。

二十数年来長崎と縁のあったマリオネットさん。ポルトガルギター奏者の湯浅さんは日本におけるポルトガルギターの第一人者です。吉田さんのマンドリンと奏でる旋律はまさにサウダーデ！目の前で奏でてもらうその音には心を揺さぶられます。CDでは何度も聴いていたのですが、やはり、生音はすばらしい！



《塾生に熱く語っていただくおふたり》



《マリオネットの話に聞き入る塾生たち》



《ポルトガルギターの説明をする湯浅さん》



《12弦を操る魔法の指。手の主は湯浅さん》

湯浅さんからは「南蛮」という言葉について語っていただきました。ポルトガルで演奏すると聞かれるそうです。「おまえはポルトガル人の心、日本人の心。どっちで演奏しているのか？」と。

そして「ひとりの人間として演奏しているんだ！」と答えるそうです。「南蛮」という言葉は、昔と逆にポルトガルで頑張る日本人の心の置き所なのかもしれません。

特別講演：

ファドミニライブ(音楽体験)

11月5日：松翁軒2階 セヴィーリア

7月にも塾会に参加してくれたファディスタの高柳卓也さんが長崎でファドライブを開いてくれました。若き情熱家の男性ファディスタ TAKU さんです。この計画は早くから構想としては考えていたのですが、佐賀在住の小林若菜さんとのご縁で実現の運びとなりました。リスボンでお店を開いているパウロさんという方が以前カステラ修行で長崎の松翁軒さんと縁があり、そのパウロさんのお店で働いていたのが小林さんで、その店にきていたのが高柳さんなのだそうです。



《満員御礼！》

そのご縁もあって、かねてから小林さんと親交のあった松翁軒山口ご夫妻にご協力いただき実現することが出来ました。ゲストにリュート奏者の井上周子さんもおいでいただき、長崎リスボンナイトは盛況のうちに楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

東京在住の高柳さんは、ファディスタとして各地で活躍されています。ポルトガルにゆかりのある人たちはどこかでつながりがあり、マリオネットのお二人とご一緒することもあるそうです。そんな中でもポルトガルと長崎はいい感じらしいです。長崎人はふつうに「南蛮」「ポルトガル」を受け入れていますし、い

にしえの歴史の中で DNA が変化しているのかもしれないね。



《左が高柳さん、右が井上さん》

本番当日の少しの時間で音合わせして、セッションをやっていただきました。

多大なご協力をいただいた松翁軒さんに心から感謝しております。またポルトガル伝来のカステラのルーツ調査でもお世話になるかもしれません。オブリガード！

http://www.fadotaku.com/
FADO に乗れ！
Noite de Lisboa em Nagasaki
TAKU 高柳卓也
2nd Album
「FADO INACABADO ~終わらなきファド~」リリース記念ライブ！
11・5 2010 開演18:15 閉演18:45
FRIDAY · NIGHT
出演：TAKU (高柳卓也) / Fado & Guitar
Guest：Chikako Inoue (井上周子) / リュート奏者
日本ポルトガル移住150周年記念
リスボン・ナイト in 長崎
ファドの夕べ
料金：1500円 (税込：ポルトガル風贈り物)
会場：松翁軒「2階 喫茶 セヴィリア」
長崎市島町5-19 (長崎市公会堂裏)
主催：松翁軒

《ファドミニライブのリーフレットです》

調査研究：

ながさきポルトガルミニさるく MAP 作製

11 月～継続：長崎市内各所

長崎のまちに埋もれたポルトガルを掘りおこすために、150 周年の行事も落ち着いた 11 月、塾生は市内各所に飛びました。まだまだこれから深く掘り下げていきますので、ここではその中のいくつかをご紹介します。



《長崎開港の碑》

元亀元年(1570)長崎開港を記念して作られた碑。桜町駐車場のそばにあります。



《フロイス通り》

平成 9 年に、ルイス・フロイスの功績をたたえてポルトガル大使により命名された通り。国道 34 号線からひとつ築町側に入った通り。日本における布教の歴史を綴った『日本史』を執筆したルイス・フロイス(1532～1597)は、長崎のサンパウロ教会付属のコレジオ(現長崎県庁)で没した。



《南蛮船来港の波止場跡》

県庁坂を大波止方面へ下った角にあります。初めてのポルトガル船来航を記念した碑です。



《華嶽山春徳寺：トードス・オス・サントス教会跡》

寛永 7 年(1630)に創建された春徳寺。現在春徳寺が建つのは、永禄 12 年(1569)、長崎初の教会トードス・オス・サントス教会が建てられた場所です。この教会は、長崎開港当時(1570 年頃)の長崎を治めていた長崎甚左衛門純景が、菩提寺にしていた寺をイエズス会に寄進したもので、その後幕府の命によって破却されました。



《南蛮えびす：モニュメント》

無表情な顔つきなんですが、愛嬌たっぷり。
みなさん、通るときに気づいていましたか？



《ガロ(メルカつきまち):モニュメント》



《450年のきもの：リスボン市寄贈モニュメント》

「南蛮えびす」は、銅座町十八銀行本店の銅座川沿いの敷地隅にあります。昭和52年(1977)に十八銀行創立100周年記念としてつくられたものです。碑文には「長崎開港の由来にちなみ、よろず繁盛のシンボルとしてこのえびす像を世に送る」とあります。

「ガロ」は、メルカつきまちの入りちかくにあるハートマークのついたニワトリです。ガロというのはポルトガルの雄鶏で「真実の証、バルセロスの雄鶏」として有名です。メルカの語源はメルカード(ポルトガル語で市場という意味です。)

「450年のきもの」は、稲佐山山頂にあります。平成5年(1993)に日本ポルトガル友好450周年を記念してリスボン市から寄贈されたものです。長崎港を見下ろせるという事で、稲佐山に設置されました。(鉄砲伝来1543年から450年と数えているそうです。)

くunch銅座町(南蛮船)について

塾生 山下 富久美

7月22日(木)今年の踊り町である銅座町の自治会長高田さんのお話を聞く機会に恵まれました。練習のお忙しい所私等、塾生の為に時間をさいて頂き感謝です。銅座の南蛮船は意外と新しく今年が4回目の出番だそうです。なぜ銅座⇒南蛮船なの？私の単純な疑問はすぐ解けました。銅座の大半の土地は明治の豪商永見家の所有で彼は南蛮文化の収集家でもあり、南蛮人来航の屏風絵も所有していたそうです。それにちなんだとの事。今年は特に南蛮屏風絵をお諏訪さんの踊り場に再現したいと意気込みを熱く語ってくれました。又今年の日ポ通商条約が結ばれて丁度 150周年目、この年にめぐって来るとは何か運命的なものを感じるとおっしゃっていました。とてもよいお話を聞く事ができました。有難うございました。



《サグレス号の人たちにお披露目の南蛮船》

Bom dia! サグレス号

塾生 山口 美由紀

2010年8月、長崎港に美しい帆船が入港しました。白い帆に赤いマルタ十字、赤と緑のポルトガル国旗を掲げた帆船サグレス号です。ポルトガル海軍の練習船であるこの船は、2010年1月3度目の世界一周航海に出航、

その途中、日本を訪れました。日本では、横浜、種子島(西表)そして長崎に寄港し、長崎には8月3日から8日まで停泊、様々な行事や市民との交流が行なわれました。



《サグレス号船上でミステリーツアー中》

知る知る塾では7月6日に勉強会を行い、塾生は、停泊期間中、参加可能な行事に思い思いに参加しました。3日は、ホテルグラバーヒルにてサグレス号歓迎パーティーに出席、直接乗組員の皆さんと接することが出来、貴重な時間を過ごしました。

4日は、出島ミステリーツアー“出島 DE 船長!”にて、ツアーのサポートを行い、参加した市内の子どもたちと一緒にサグレス号に乗船しました。一般公開前にいち早く甲板に立ち入りました。



6日は、銅座町の皆さんが、メンデス艦長以下船員の皆さんの前で、南蛮船の実演を行ないました。長崎に根付いた南蛮文化の一端が、現在の長崎人に受け継がれているという

印象を受けました。

サグレス号は、1937年に作られ、ドイツやアメリカ、ブラジルで活躍し、1962年からポルトガルの船になりました。長崎寄港は4回目で、1993年10月以来となります。洋上を進む姿は大変美しく、帆船ファンの間でも人気が高い船と言われています。その美しい帆に風をはらみながら、8月8日長崎を出港、鳴り響く汽笛の音は“また来るよ”と聞こえました。

ポルトガルの音楽

塾生 一瀬 比郎

ファドが響く文化の交差点、リスボンで活躍するファド歌手、高柳卓也さんの歌声に心をゆさぶられ、マリオネット（ポルトガルギター奏者の湯浅隆さんとマンダリンの吉田剛土さんのデュオ）の音色に酔いしれました。そして40年前リスボンで3泊、毎晩アルファマ地区の本場のファドを聴いていただけに懐かしく思い出がよみがえります。



《ポルトガルギター奏者の湯浅隆さん》

塾に参加して

塾生 奥田 孝雄

私は、ながさきポルトガル知る知る塾に参加して早1年弱になります。昨年はポルトガルと日本が通商条約を結んで150年、又ポルトガルと長崎の南蛮貿易が始まってから460年という長い歴史と深い関係を持つという時期に、この塾に参加でき、私にとって非常に良い勉強になりました。

世界で一番美しい帆船サグレス号の入港、その入港期間に塾生の皆様と一緒に出島ミステリーツアーを企画し、参加した事、又昨年の長崎くんちに銅座町の南蛮船が奉納されたり、ポルトガルの音楽にも触れる事が出来、充実した1年間でした。これも先輩塾生の例会での活発な討論、助言が参考になりました。私は3つのグループの中の遊組(ポルトガルを遊ぶ)に席を置き、南蛮カルタ(ウンスカルタ)という始めて目にする、耳にする遊びでした。日本のカルタと違い4人でチームを組んで対戦する非常にチームワークを要する、ポルトガル独特のカルタです。熊本県人吉市で10月10日(日)に開催された「人吉ウンスカルタ大会 and ポルトガルゆかりの地交流研修会」に長崎の塾から4チームが参加するとの事で、私もそのチームの一員として大会前に先輩方々から厳しい特訓を受け臨みました。1日4試合あるとの事、1回戦は人吉の小学生相手に勝かもしれないと思いつつ、最終的にはこてんぱんにやっつけられてしまい、チームのメンバーは皆がっかりでした。その後大学生、一般と対戦し1勝3敗に終わり、他の3チームも芳しい成績を上げることが出来ず、帰路のバスの中には重苦しい空気が流れておりました。



この大会に参加し感じた事はポルトガルとゆかりのある人吉市が、町おこしとして小学生から大人まで「ウンスンカルタ」を楽しんでいるとの事でした。大会開催日は町全体に活気があふれていました。優勝したのはポルトガル留学生チームでした。今大会の反省を受け次回にむけ先輩塾生の指導のもと、チームワークを重視し力をつけられる様楽しくウンスンカルタに接していると共にポルトガルと縁に深い長崎で近い将来、ウンスンカルタ世界大会が開かれる事を夢見て、皆様と今後の「ながさきポルトガル知る知る塾」の発展に寄与したいと思っております。



《優勝した「ポルトガル留学生チーム」》

唯一の国際合同チーム。初参加で初優勝でした。中央の女性がポルトガル人留学生です。

アズレージョ・ポルトガルタイル 絵付け体験に参加して

塾生 寺島 和子

長崎県美術館で(10/2—10/14)日本ポルトガル修好 150 周年記念展『ポルトガルの心 inNAGASAKI』に作品を出品された白須純氏にご指導して頂きました。14 cm×14 cm のポルトガル製タイル(規格はポルトガル政府により決められているとの事。)に酸化コバルトで絵付けをしました。いろいろな方法や、13 世紀頃に作られたタイルを見せて頂きましたが、色(ブルー)は変色していなくてびっくり致しました。

2 種類の方法を教えて頂き、1 枚は全面に酸化コバルトを塗って下絵にそって削る方法と酸化コバルトを筆に浸して下絵に絵付けする方法。下手な私は葉を描けば描くほど肉厚で太くなっていきましたが、焼き上がりは(東京の先生の工房で焼いて頂きました)私としては上出来でした。とっても貴重な楽しい体験をすることができ満足しています。



《熱心に指導中の白須純氏と塾生》

メルカつまちの市場に下る階段の両側面の壁のタイルがアズレージョですので機会がありましたら、どうぞご覧になって下さい。

塾生のひとこと（順不同）

塾活動の感想を一言お願いします。

ポルトガルについて色んな分野を勉強しました。大変楽しかったです。

(若杉 昭子)

夜の勉強会で私には大変好都合であった。でも昼間ポルトガル関係（ゆかり）の地をさるきたかったです。皆様と楽しく勉強させて頂きました。感謝申し上げます。

(藤本 芳子)

ポルトガルギター、ファドなど新しい世界も体験出来ました。

(岡部 さつき)

塾後のノミニケーションも楽しみのひとつです。

(程野 章朗)

波の音は、ガレオン船の子守唄♪ポルトガル、オブリガータ！

(山口 美由紀)

ポルトガルの音楽、食べ物、長崎との関わりなど知ることが出来、とても楽しい塾でした。来年も入塾したいと思います。

(富永 緑)

今年度は、ちょうどポルトガルとの通商条約締結後150周年の年にあたり、予定外の通常では体験出来ない様なイベントがあり、大変楽しい塾でした。

(船井 サトミ)

長崎ポルトガル修好150周年記念行事にいろいろ参加することで、ポルトガルが身近に感じられるようになりました。

充実した楽しい1年でした。

(寺島 和子)

タクさんのファドのライブ、しびれました。

(山下 富久美)

やっぱり、一度は、ポルトガルへ行って南蛮料理を味わい、ファドを感じた～い。

(眞鍋 由美子)

今年の塾ではサグレス号来航とポルトガル大使との会食でした。

(松尾 博之)

塾長の一言

あっという間の一年で、
盛りだくさんの一年で、
たくさんの出会いと、
たくさんの感動を得ることができた、
すべての出会った方たちに対して、
感謝・感謝・感謝の一年でした。

オブリガード！

(塾長：山口 克己)

ながさきポルトガル知る知る塾

| | | | | | |
|----|--------|----|--------|------|--------------|
| 塾長 | 山口 克己 | | | | |
| 1 | 一ノ瀬 比郎 | 21 | 藤永 信子 | 41 | |
| 2 | 植木 修平 | 22 | 藤本 芳子 | 42 | |
| 3 | 大場 勝彦 | 23 | 船井 サナミ | 43 | |
| 4 | 岡部 さつき | 24 | 程野 章郎 | 44 | |
| 5 | 奥田 孝雄 | 25 | 松尾 博之 | 45 | |
| 6 | 草野 肇 | 26 | 眞鍋 由美子 | 46 | |
| 7 | 安田 正次 | 27 | 三浦 英昭 | 47 | |
| 8 | 阪井 紀久子 | 28 | 溝田 みどり | 48 | |
| 9 | 酒井 修二郎 | 29 | 山口 美由紀 | 49 | |
| 10 | 迫田 佳矢 | 30 | 山下 富久美 | 50 | |
| 11 | 島田 和文 | 31 | 吉岡 ユリ | 51 | |
| 12 | 園田 庄一 | 32 | 吉岡 陵子 | 52 | |
| 13 | 立山 幸見 | 33 | 若杉 昭子 | 53 | |
| 14 | 谷口 市郎 | 34 | 内川 雅夫 | 54 | |
| 15 | 寺島 和子 | 35 | 方 公成 | 55 | |
| 16 | 富永 緑 | 36 | 方 香織 | 56 | |
| 17 | 富永 則子 | 37 | 方 花音 | 57 | |
| 18 | 中村 一成 | 38 | 方 凜音 | 58 | |
| 19 | 中村 列子 | 39 | | 59 | |
| 20 | 平崎 保信 | 40 | | 事務局員 | 国際課 石嶋 昭吾 |

